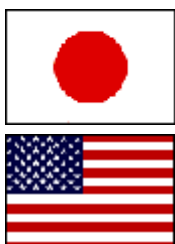


世界のバイオ燃料事情



日本でバイオ燃料を使用した試験飛行が 米国では第 2 世代バイオ燃料の生産に向けて

昨年 12 月 21 日付の本レポートでご紹介しました再生可能ジェット燃料(第 2 世代バイオ燃料のひとつ)を使用した日本航空の試験飛行が 1 月 30 日に無事に行なわれました。

日本航空、Boeing、Pratt& Whitney、UOP、Sustainable Oils および日揮ユニバーサルが協力して実施した「JAL バイオ・フライト」には、カメリナ(84%)、ヤトロファ(ジャトロファともいう: 15%)、藻(1%)を原料とした 3 種のバイオ燃料を混合したジェット燃料が使用されました。

詳細は以下に掲載されています。

<http://press.jal.co.jp/ja/release/200901/001107.html>

主原料のアブラナ科のエネルギー作物「カメリナ」の油は、カメリナを原料とするバイオディーゼルの製造販売会社 Sustainable Oils が納入し、UOP が水素化処理して再生可能ジェット燃料に仕上げました。

私も知らなかったのですが

米国はバイオ燃料の国産原料としてカメリナの栽培に取り組んでいます。

カメリナは、「モンタナ州、ノースダコタ州、サウスダコタ州およびカナダ南部に広がる高原でよく育つ」(1 月 31 日、Associated Press Newswires) そうで、現在はモンタナ州を中心に栽培されています。

昨年成立した 2008 年農業法は

このカメリナを初めて連邦政府の作物保険の対象にしました。

作物保険は、災害などによる単収の減少を補うもので、農家が安心してカメリナを栽培するた

(Web 公開)「世界のエネルギーの話題」(2009年 2 月 7日)

めの必要条件です。

そしてこの農業法は、農務省に第 2 世代バイオ燃料の開発、商業生産に向けて大きな役割を担わせました。

第2世代バイオマスから先進的な輸送用燃料を製造する実証プラントの建設を財政支援できるようにしました。

さらに、商業規模のバイオ燃料製造プラントの建設の債務を保証できるようにしました。

新政権が発足して早々の 1 月 30 日に、農務省とエネルギー省が、「バイオ燃料、バイオエネルギーおよびバイオ由来の高価値製品を製造するための技術およびプロセスの研究開発に最大 2,500 万ドルの資金を供与する」と発表しました。

経済的にも環境的にも持続可能な資源である再生可能バイオマスを対象にしています。

米国の航空輸送業界がその生産を強く後押ししている米国産の再生可能ジェット燃料もこの対象です。

ひとこと

米国航空輸送協会の May 会長が、「Obama 政権が代替エネルギーのためのこの資金の確保に迅速に取り組んだことに感激して」(2 月 2 日、PRNewswire)います。

米国では政権交代によって、第 2 世代バイオ燃料の商業生産に向けた動きが加速されています。

(YY)

本レポートは、世界の 2500 紙以上の新聞、5500 紙以上のビジネス紙および業界紙、600 以上のニュースワイヤー(速報)/プレスリリース等を検索できるファクティバ(ダウ・ジョーンズ社のデータベースサービス)を利用して入手した多数の記事、レポートを比較、分析して執筆しています。(山崎由廣)